

---

# 東方 S S

ミコト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方SS

### 【Nコード】

N5124Y

### 【作者名】

ミルト

### 【あらすじ】

息抜きに更新される東方SS、カオス分高め。

## EX会議

「フランドール・スカーレット」

「はい」

「藤原妹紅」

「はいはい」

「洩矢諏訪子」

「はいよー」

「古明地こいし」

「はい」

「封獣ぬえ」

「……はい」

「うん、全員いるね。」

それじゃ第十七回EX会議を始めます。

今回の議題も【小野塚小町と四季映姫・ヤマザナドゥはEXに入るか】」

そう言い終わると、藍は円卓に茶と菓子を置いていった。置き終わるとフランドールと妹紅の間の椅子に腰掛ける。

「いつになったらこの議題解決するの？」

飴を口の中で転がしながら、何を考えているか分からない表情でこいしはそう言った。

この議題は諏訪子、こいし、ぬえが参加し始める前から話し合われているという。

そろそろこの議題に飽きてきた様子の五人を気遣い、こいしは無意識を装ってそんな事を呟いたのだ。

「閻魔様に白黒はつきりしてもらえば早かったんじゃないのかな」

「いや、それは……」

藍はその提案に言葉を濁した。

それは二ツ岩マミゾウがいつまで経っても参加しないのと同じで、たまに参加する紫が映姫を苦手としているからだ。

自分勝手だろうが、決定権は藍と紫にあるのだから仕方ない。

「それなら大丈夫です」

ぬえが椅子から転げ落ち、紫がスキマから落ちてきて、妹紅が目を逸らした。

会議室という名のフランドールの部屋の入口に、誰もが苦手とする四季映姫・ヤマザナドゥが立っていたのだ。

「……ノックくらいするべきだったかしら？」

どこかずれた呟きをする映姫をよそに、部屋の隅でしゃがみガードを発動する紫とぬえ、それをニヤニヤしながらつつくフランドール、

どうしたらいいのかと狼狽える藍、落ち着いているように見せかけて震えている妹紅、映姫の分の茶を用意し始める諏訪子、自分のせいかとおどするこいし。  
もうこれは会議などではなかった。

今日のところはひとまず解散し、全てを明日に回した会議。  
翌日の第十八回EX会議が幻想郷で語り継がれることになるとは、誰も思っていなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5124y/>

---

東方SS

2011年11月17日20時59分発行